

## 01 Woman's Trend

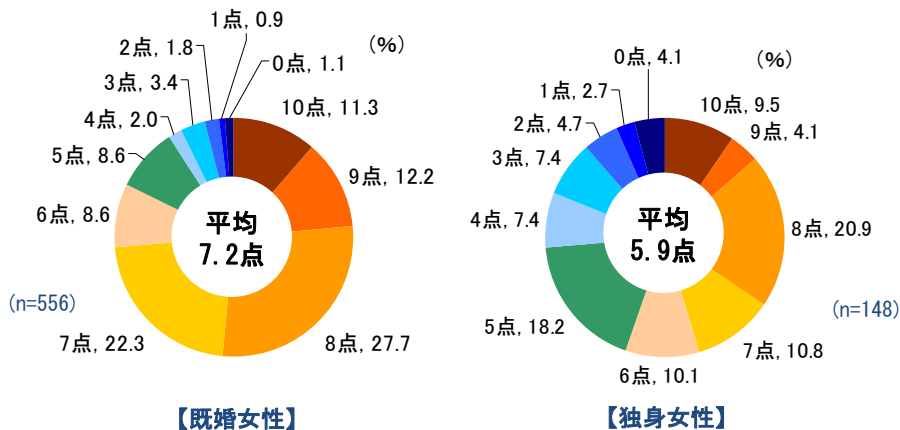
### 2013年を総括、女性たちの今年の一文字は「偽」！ 景気回復実感はないが、まあ幸せだった・・・

Q. 「今年の一文字」TOP10 (n=680)

順位	今年の一文字	票数
1位	偽	49
2位	輪	23
3位	今変	20
5位	楽	19
6位	災	18
7位	倍	17
8位	雨昇	15
10位	忍嵐	12

2013. 11. 07~11. 10 女性を対象にWEB調査 (n=710)

Q. あなたの家庭は今年、幸せだったと思いますか？  
申し分のない幸せを10点満点としたら、何点をつけますか？



2013年も大詰め、今年の一文字発表前に女性たちの今年の一文字を聞いてみたら、ダントツで「偽」。

景気回復に水を差すような偽装表示問題は、女性には切実な問題として響いた。食品偽装だけでなく「福島原発事故関連の嘘の発表や偽りの景気回復、今年はウソで塗り固められた1年だった」という厳しい声も散見され、家計を預かる女性たちには浮かれた気分は少ない。

2位以下は、五輪決定や人との輪を考えて「輪」、「今でしょ！」や今を懸命に生きて「今」、変わりたいという思いでの「変」など、来年への希望も込めての一文字が続いた。

「楽」は楽天優勝や「あまちゃん」が楽しかった、「倍」も倍返しなど、ブームを巻き起こしたものが、その

まま表れたほか、天候や災害に関する字も多く挙がった。

家庭の幸せ感を10点満点で確認したのが上のグラフ。既婚女性は半数が8点以上をつけたのに対し、独身女性のほうが少し辛め。家族の存在、特に子どもの成長が文句なく幸せに思えるのだろう。

この点数は昨年と変わらないとする人が5割、3割が昨年よりいいとした。一方で、家計のゆとり感を昨年と比べると、やはり5割が変わらないとしたが、昨年のほうがゆとりがあったとする人が3割強で、景気回復の実感がないどころか、悪化した感がある人も多かった。

政府が喧伝する景気回復を、来年は、庶民が「真実」と実感できるというのだが。(所長/植田奈保子)

#### 少数派の「今年の一文字」

- 倒** パートしてた会社が倒産しました。残念。(24歳/既婚)
- 疲** 不妊治療の真っ最中。先が見えない状況にだんだん疲れてきました。(26歳/既婚)
- 驚** じえいじえい！(32歳/既婚)
- 離** 離婚したので！(36歳/独身)
- 叫** 息子が大声で叫ぶことが増えているから。(39歳/既婚)
- 沈** 冬のボーナスが出ないと宣告されたので。(42歳/既婚)
- 梨** ふなっしーの注目度が意外と高い。(45歳/既婚)
- 差** 悪いことをする人はより凶悪になって、自己犠牲を払っても良いことを行う人との人格の差が広がっていると感じる。(47歳/独身)
- 老** 五十肩で苦しんだ。(50歳/既婚)
- 謝** 謝罪会見が多かった。(56歳/既婚)
- 緩** ゆるキャラがブーム。企業の緩い考え方のために食品偽装などが発生。(57歳/既婚)
- 成** 国の成長戦略と孫の成長。(70歳/既婚)

## 02 M&D Labo.

### 快適？ 想定外？ 母娘型二世帯住宅のホンネ



住宅メーカーの発表数字でも、最近じわじわと増加傾向にある二世帯住宅。中でも、娘世帯と同居するケースが増えているという。

そこで今回は、母娘型二世帯住宅について調査した。現在、同居しているかどうかにかかわらず、理想的な同居居住形態を聞いたところ、1位は「同じ敷地内で別々の一戸建て」、**「二世帯住宅」**は2位。昨今の仲良し母娘であっても、一戸建てに同居したいと考える人は13.7%にとどまった。

団塊世代は、自分たちの暮らしを楽しみたい傾向が強い。また娘世帯は実家の近くで生活する、つかず離れずの近接別居を選ぶ人も多い。

二世帯住宅のメリットを挙げてもらったのが下の表だが、今回は実際の二世帯同居経験者にインタビューするネット会議室を実施した。くらしHOWのサイト上で公開中なので、リアルな現状、ナマの声をご覧いただきたい。(室長/西桂子)

【実家の親(または実の娘)との二世帯住宅のメリットは？】

(n=189、複数回答、数字は%)

順位	メリットと思うこと	%
1	すぐそばに親がいるので、世話をあげられる	60.3
2	親と一緒にいる安心感がありながら、互いのプライバシーも守れる	41.8
3	土地代、建築費が二世帯別々に建てるより安く済む	39.7
4	何か困ったときすぐに親世帯と相談し合える	36.0
5	孫世代の教育・精神面で、三世帯での生活は良い影響がある	30.7
6	夫婦共働きでも、日中家が空になることがない	30.7
7	固定資産税、ローンなどにおいて得になる方法がある	27.5
8	食材を分け合う、冠婚葬祭のお付き合いが一世帯分だけ済むなど、生活費が節約できる	24.9
9	自分たちだけでは建てられない一軒家に住める	9.0
10	その他	1.1

2013年11月リビングWebでの調査。  
詳細はくらしHOWのサイト「M&D Labo.」へ

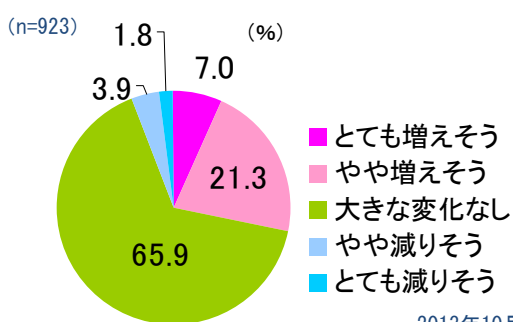
## 03 Woman's Data

### 【主婦のキモチ】

#### 「今年の年越し費用は増えそう」が28.3%

今年の年末年始は多くの家庭で9連休を取得できる可能性が大。主婦に年越しにかかる費用の予想を聞いたところ「増えそう」という人が約3割だった。正月休みが長いと帰省滞在日数が長くなったり、例年よりも遠出の旅に出かけたり、そうでなくても家族が揃うのでレジャーや食費など何かと出費がかかりそうという見込みだ。

【年越しにかかる費用は、昨年と比較して変化しそう？】



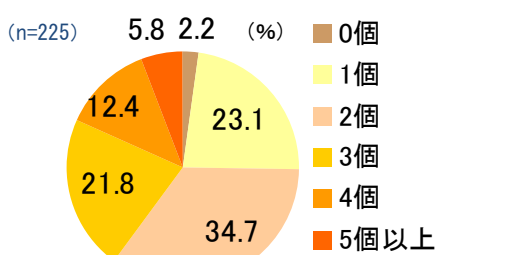
2013年10月  
既婚女性を対象にWEB調査

### 【子育てママのキモチ】

#### クリスマスプレゼントは平均2.4個

幼稚園ママと保育園ママに、園児がいくつクリスマスプレゼントをもらうか聞いたところ、平均は2.4個だった。プレゼント購入時期は「12月前半」が64.2%で最多。両親以外にプレゼントをくれるのは「母方の祖父母」が71.5%で、「父方の祖父母」53.6%を大きく上回った。子どもは母方の祖父母との結びつきが濃いようだ。

【園児がクリスマスプレゼントをもらう数】



2013年6月7日~30日  
リビング新聞/シティリビング/あんふあんWeb調査

## 04 Group Eyes

### 「アート&ライフ マーケット」各地で開催 買い手も作り手も盛り上がる一日

リビング新聞の定番イベントとしてすっかり定着している「アート&ライフ マーケット」。ミセスのハンドメイド作品の展示・販売イベントで、リビング新聞の各エリアで毎年開催されている。1つの会場で1000~2000人の来場があり、朝から入場待ちの行列ができる程の人気イベントだ。

開催の集中期は秋。今年は10月21日の吉祥寺を皮切りに、11月12日横浜、11月19日昭島、11月27日中野、11月28・29日たまプラーザと、毎週のようにどこかで開催されていた。

会場には、50以上の個人・団体がアクセサリーや雑貨等の販売ブースを出店。売り手も買い手もミセス同士、商品を仲立ちにして話が盛り上がる。人気作家の店は通路まで人だかりができて、身動きが取れないことも。当然、協賛社ブースにも、自然と人が流れていく。

各会場は小さくとも、首都圏全体で



熱心に出展ブースをチェックする来場者

見れば、毎年1万人近い参加者を集客しているこのイベント。リビング新聞のアクションメディアとしての強みと地域密着性を見事に体現していると言えるイベントであり、さらには若年層の来場が去年より増えている(出展者談)という点も今後見逃せない要素だ。

(サンケイリビング新聞社 CC室)